

じゃっと新聞

No.65 号

スタディツアー報告 学会案内

発行日：2015. 1. 31

発行人：帖佐 徹

発行所：じゃっと事務局

〒895-0054 鹿児島県薩摩川内市神田町

11-20 若松記念病院内

TEL/FAX 0996-27-0193

e-mail jaddo@po2.synapse.ne.jp

<http://www2.synapse.ne.jp/jaddo/>



理事長 帖佐 徹

皆様、明けましておめでとうございます。昨年末には、二度目の、学生参加としては初めての、カムワン県セバンファイ郡シーブンファン地区小学校へのスタディツアーを敢行致しました。経済発展の進んだビエンチャンから開発途上の地域へ活動主体を移して2年目、現地の子供達の成長や健康に貢献できるのでしょうか。まだまだ手探りです。詳しい内容は別項で報告がありますのでご参照ください。

さて、本年2月28日には、第33回国際保健医療学会西日本地方会を、「じゃっと」が開催する運びとなりました。地方都市の小さなNGOを御指名いただいたのは、まことに有難いのですが、きちんと運営できるのか、関係者一同懸念も致しました。しかし、専任スタッフも長期派遣スタッフも居らず、現地事務所もない、保健医療関係のメンバーも少ない「じゃっと」が、現地ラオスの人々との協働によって20年続けてくることができた背景を、社会に知っていただく良い機会と捉えて、お引き受けした経緯があります。ただ何しろ初めてのことで、学会ウェブサイトの立上げから、会場選定、論文募集、ポスターやチラシの宣伝活動と大変な状況です。本新聞の発行時は、会場内の設営から機材の準備まで、まだまだ準備に忙殺されていることと思います。地方会のテーマとして、「途上国の食と健康—我々はいかに関われるか?」を選択したのは、社会的背景の多彩な「じゃっと」会員の立場から鑑みて、専門的な分野より、より一般の方々にご理解いただける国際協力的话题を取り上げたものです。とくに市民公開講座には注力し、内戦の激しかったルワンダでの教育復興と栄養改善に取り組む「ルワンダの子供たちの教育と栄養」、アジアの照葉樹林の環境がいかなる食の発展を促したかの「納豆の起源：途上国の環境と食」の二題としました。21世紀は「食と健康」が問われる世紀です。発表に期待致しましょう。

2014 じゃっどスタディツアー報告

じゃっど理事 小幡 順子

12月23日（火）

8:00 福岡空港集合

ベトナム航空にてハノイ経由ビエンチャン移動

ホテル着後、現地集合の泊会員と合流。ビエンチャン在住の日高葵さんも合流して会食。日高さんは、第1回学生派遣ツアーの参加者で、ツアーで知ったラオスに惚れ込み就職活動を行い、念願かなって現在ビエンチャンにある企業に勤務中です。じゃっどツアーがつなぐ縁に感慨深い思いでした。食後、メコン川沿いのナイトマーケットを散策しながらホテルへ。

12月24日（水）

じゃっどのラオス側スタッフ Dr ソムチット、コンサップ夫妻、ラオス在住のガイド虫明氏と合流し、ビエンチャン郊外のサムケ小学校訪問。

サムケ小学校へ寄贈する机椅子への記名作業、引き続き贈与式。その後、小学校視察。贈与式の後、日本側から学生による日舞、ようかい体操の披露、お返しとしてサムケ小学校からは民族舞踊の披露がありました。

学校が準備した昼食を頂いた後、ビエンチャンから国道13号線を南へ約6時間、カムアン県タケクを目指して車で移動。

17時過ぎ、ホテル着。

古田理事提案でメコン川沿いにあるビアテラスにて夕日を見ながら一杯。ビールを片手にのぞむメコン川の向こうはタイ・ナコーンパノムという街です。タケクにはラオス～タイをつなぐ第3友好橋があり、タ

イからラオス東側国境のベトナム・チャーローまで整備された道路はアジアハイウェイとして物資流通のポイントとなっています。次回は、タイ側からタケクを訪れてみたいなど語り合いながら暮れていく夕陽をのんびり眺めることでした。

ホテルで休息とった後、じゃっどのカムワン県における活動パートナーとなっているアイサップ・タケク事務所スタッフ3人を招待して会食、情報交換を行いました。

12月25日（木）

7時ホテルを出発して、トゥン小学校へ出発。途中タケクでもおいしいと評判の食堂でカオ・ピャク・センの朝食。

45分ほど南へ移動してトゥン小学校着。プータイ族主流の学校。トゥン小学校を含めた小学校7校のセクター中心校です。

机椅子への記名作業後、贈与式、交流会。ここでも、学生による日舞、ようかい体操が大うけ。特にようかい体操には「アンコール」がかかり、子供たちを交えてみんなで踊りました。

昼食後、さらに5分南へ移動し、セクター学校のひとつブンファナー小学校視察。トゥン小とは、さほど離れてはいませんが、モン・クメール系アコーン族主流ということで別になっています。昨年度、水道本管からトイレまでのパイプを寄贈した学校です。そのトイレは水もしっかり流れ、きれいに管理されていました。

学校のすぐ隣に、地元市場があるということで移動。売り手は近所の主婦達という感じのこじんまりした市場です。日常食品として日本では食用としないネズミヤリス

などの小動物が主な販売されていたため、学生は少々ショックを受けていたようです。

タケク東部は中国・桂林に似た地形で、ガイドの虫明氏によると「トレッキングやロッククライミングなどで欧米からの観光客が増えている地区です」ということ。また、ベトナム国境近くには大きなダムがあり、ベトナムへ電気を輸出しているとのこと。

タケク東側には多くの洞窟があるということで、タケク市内から約 20km 離れた洞窟見学。日本の鍾乳洞と比べると未整備という印象でしたが、これからどんどん観光化されるのだろうなと思える環境でした。

12月26日（金）

午前中、ビエンチャンへ移動

ビエンチャン着後、市内観光。ワット・ホーパケオでは結婚写真を撮るカップル遭遇。ラオスでは結婚式の前に記念撮影の前撮りとして観光名所等で民族衣装を着て記念撮影することが流行っています。一息ついたカップルにお願いして、一緒に写真を撮らしてもらうことができ、よい旅の思い出となりました。

12月27日（土）

ビエンチャンからベトナム・ホーチミンへ。

ホーチミンでは 8 時間乗り継ぎ時間があったため、空港外へ出て市内観光。近年のビエンチャンのラッシュはすごいなと思っていましたが、ホーチミンのラッシュは桁違いにすごいです。国の勢いの違いを感じるひとコマでした。

12月28日（日）

早朝、関西空港着。新幹線にて鹿児島帰着。

帰省ラッシュ期ではありますが、事務局が手配してくれた指定席のおかげでゆっくり座って帰ることができました。紙上にてお礼申し上げます。

これまで学生参加ツアーの場合、きれいな日本人が抵抗の少ないきれいなレストランから食事を始めていました。しかし、今回はいきなりローカル食堂から始まりました。ところが、学生さん方はローカル食堂の環境を物ともせず、また学校の父兄が準備してくれた家庭料理も抵抗なく食べてくれました。食事注文を任されたものとしては嬉しい驚きでした。

また、第 1 回学生派遣ツアーの参加者である日高さんとラオスで再会することができて感無量でした。今の企業（ラオス）に就職するまでの苦勞など聞き、夢を叶えようとする思いは、行動力や探求力に変えられるのだなと強く思ったことです。今回参加された学生さん方の今後の活躍を期待します。



ラオスタディツアーに参加して

鹿児島大学医学部医学科3年 寺田朋

今回のツアーにあたり、「じゃっど」について調べようと思ったが、活動内容やじゃっどの歴史にただ目を通すだけで、その意義や意味についてあまり考えないままツアー当日を迎えてしまった。

そしてツアーを進めていく中で、現地でその活動の何たるかを学んでいった。それは自分では想像つかないほど素晴らしいものだった。

国際交流活動をしていくに当たり、フィールドワークの大事さは知っている。その土地の国民性や習慣、環境、社会政治歴史などなど多くの事を考えながら医療活動は行われる。

じゃっどは定期的に現地を訪れることで、その土地を、さらにはその土地の歴史まで知りつくしている。さらにその定期訪問は信頼関係を生んでいると感じた。

そしてその活動内容だが、一番心に残ったことが、子どもたちを中心に指導をしているということだ。子供たちは純粋で呑み込みが早い。私は、子供たちを撮ろうとカメラをむけたのだが、誰ひとり笑わず怪訝な顔をしていた。そこでカメラで撮った後その画面を子供たちに向けたら笑い始めた。その後は皆、カメラに写りたいと集まってきて、最終的にカメラを渡すと上手な写真をとるほどまでになった。

公衆衛生でも指導対象を子供にすることで、すぐ習慣になり、それが家族まで広がりやがて地域で広がっていくということに感心した。

今回これ以外にも「じゃっど」という団体の素晴らしさを身を以て知り、さらに公衆衛生への興味、さらにはラオス、東南アジアにも興味がでてきた。

自分個人にとっても、医師を目指す自分にとっても良いツアーになったと思った。



今回、スタディーツアーに参加させていただきありがとうございました。かけがえのない貴重な体験をすることができたと感じています。今まではラオスについてほとんど知りませんでした。しかし今ではラオスが好きだと言えます。食べ物は美味しく、過ごしやすい気候でした。そして人々は温かかったです。東南アジアに行くのは二度目でしたが、日本の当たり前が当たり前じゃないことの連続でした。刺激的な日々でした。メコン川に沈みゆく美しい夕日を眺められたことや、バロットを初めて食べたことなど、多くの写真と共に蘇る思い出は数多くありますが、私の心に深く残っているのは子供たちの笑顔です。小学校視察の際には想像していた以上の歓迎をされました。子供たちは素直で純粋な笑顔を振りまいてくれて、とてつもなく可愛かったです。この子供たちが将来の夢に向かって明るい希望を持ちながら、健康に生きて満足に勉強していつか欲しいと心から思いました。恵まれた日本の地を離れ、自分自身を見つめなおす良いきっかけにもなりました。残された学生生活、これからの人生の糧となる経験でした。全力で今を生きようという思いが強くなりました。じゃっどの支援は現地の大きな助けとなっていました。ラオスに多大な貢献をしていると分かりました。教師に教育をし、教師が子供たちに教え、子供たちが家庭や他の子供たちへ広げていくという「小さなお医者さんプロジェクト」には感銘を受けました。ラオスで子供たちの教育環境と衛生の向上を目指して素晴らしい活動を行い続けている団体が鹿児島にあることは誇りであり嬉しく思います。ありがとうございます。どんな形かは分かりませんが絶対またラオスに行きます。自己研鑽に励み、成長した自分でラオスに再会したいです。最後になりましたが、今回、ラオスを訪れるにあたり関わらせていただいた全ての方々に感謝します。本当にありがとうございました。コープチャイ！



月がぼんやりとでている朝、不安と緊張でいっぱいのスーツケースをひきずるようにして出発した。ビエンチャン到着までの道のりが長く感じられたことを今でも覚えている。

しかし、そんな不安と緊張はラオスの人々と出会って行くごとに消えていった。ラオスの人々はあたたかいということが分かった。目が合うと、照れくさそうににっと笑う。困っているときには、さりげなくそばに来て力を貸してくれる。そして何より、ひとたび宴会が始まるとなると、寡黙な人であろうと、偉い人であろうと、手と手を取りあって踊りだすのだ。子ども達だってそうだ。こちらが挨拶をすると、丁寧に胸の前で合掌をし、ちょこんと膝を折り曲げて、「サバイディー（こんにちは）」と挨拶をしてくれる。小学校訪問時には、じゃっどから贈られた新しいサッカーボールが嬉しくて、空気の入っていない状態で遊ぶような無邪気な子もいた。ラオスの人々と一緒にいると、こちらまで自然とあたたかい気持ちになれるのだ。

日本は「恵まれた国」と言われることが多い。安心・安全で、便利な物で溢れている。だが、今日の人と人どうしの繋がりにおいては関係が希薄化している。その点、ラオスは人があたたかい。物や経済の安定だけが恵まれているかどうかの尺度にはならない。心の豊かさにおいて、ラオスは日本よりもずっと「恵まれた国」だと私は思う。興味深いことに、ラオスの国花であるプルメリアの花言葉は「恵まれた人」である。

ラオスには解決しなければならない問題はある。けれども、あたたかい人に恵まれた国だからこそ解決できる問題も少なくないはずだ。スタディーツアーを終えた今の自分、そして、これからの自分に何ができるのか、じっくり考え行動をしていきたい。



今回このスタディツアーに参加したのは、発展途上国とはどのようなものなのか、また初めての海外だったため海外はどのようなものか、というのを肌で感じたかったからです。将来は青年海外協力隊に参加したいと思っているので、このスタディツアーは私にとっても合っていると思いました。名前を聞いてもどこかわからない、この国がどこにあるのか、何語を話すのかもわからない、ラオスは私にとってそんな国でした。想像とは違い首都にはホテルもあり、車もたくさん走っていて、大きな家も建っていました。また、日本のすし屋など日本語で書かれたお店も多数ありました。

私はラオスは自由な国だなという印象を持ちました。子供たちは暗くなっても遊び、バイクは4人乗りもありました。小学校に訪問した時は、歓迎されて教員の人達とお食事会をしました。食事は多くは手で食べます。日本では考えられない出来事に最初は戸惑いました。しかしラオスの人達はとても優しく、子供たちも一回も会ったことがない私たちを受け入れてくれました。写真を向けると笑顔でピースしたり、ある女の子はこの子を抱いてと言って、まだ赤ん坊の子供を抱かせてくれました。供与する机に名前を書いていると、興味があるようで子供たちはずっと見つめていました。名前を書き終わるととても笑顔になり嬉しそうで、私も嬉しくなり机を供与してくださった方々に感謝したいと思いました。しかし、この子供たちが衛生面で安全と呼ばれるにはまだ遠いと思いました。トイレには電気はなく、流すときは近くの水を直接トイレの中に入れなければなりません。



トイレトペーパーもありません。手を洗うところもありません。その手でご飯を食べると病気になるかもしれません。私たちはまだある程度整備された学校に訪問しました。しかし、都市部から遠く離れた学校はさらに衛生面では恵まれていない状況になります。

ラオスを訪問し、日本はとても恵まれていると感じました。また、ラオスのように環境や衛生面が整っていないくて、子供たちの身体が危ぶまれている、そんな国が世界にはたくさんあるのだろーうと思いました。私たちができることは限られているかもしれませんが。しかしそのような国があるとまず知ることが大事だと思います。これからさらに勉学に励み、青年海外協力隊として発展途上国に貢献できるような看護師になろうと改めて思ったスタディツアーでした。



なにも考えず、ラオスの国の場所さえ知らずにツアー参加いたしました。自分の子供の頃にタイムスリップした感覚で、なんとなく懐かしく心あたたまる景色でした。

小学校の様子

- ・小学校視察で、子供たちの大歓迎に驚いた。
- ・子供たちの 目の輝き 笑顔がすばらしかった。
- ・日本では考えられないが、小学校の校庭に、にわとり・犬・豚などが同居していても、なにも違和感がなく大きな木の下で吹く爽やかな風がとても気持ちがよかった。
- ・物質的な豊かさは無くても、なんとなく日本では感じられないこころの豊かさを大いに感じられた。

メコン川で

- ・メコン川に沈む夕日を見ながら、ビールを飲むチャンスに恵まれた。
- ・大げさに言うと、夕日一つで生きていて良かったと感動した。
- ・この夕日を見るだけでも、スタディツアーに参加した価値が十分にある。

食事について

- ・食事はどうだろうかと心配をしていたのだがとても美味しかった。
- ・食事担当の小幡さんのはからいで日本人向けの料理だったみたい、配慮いただきありがとうございます。
- ・ただし、爆弾注意！！（唐辛子） 激辛はたまりませんでした。

若者たち

- ・同行した大学生たちのたくましさにも感動。子供達とすぐ溶け込んで感心した。

・還暦を過ぎた私ですが、学生たちに、あとひと頑張りの気持ちを頂いた。



ビエンチャンから約5時間の車移動を経てターケーク到着後、メコン川に沈む夕陽を眺めながらビアラオで乾杯！

私・今村（左） 古田理事（右）

・小幡談

「別料理を頼んだのではなく、日本人好みの料理中心に注文しただけです。」

辛さは遠慮なしのラオスレベルでしたよ！



2014 じゃっどスタディツアー 2014/12/23-12/28



【事務局たより】

新規会員・ご寄付（2014年7月～2015年1月）

感謝の気持ちと共に、ご協力くださった皆様のお名前を記載させていただきました。（以下敬称略）

- 新規会員 寺田朋、大坪稔拓、鹿児島大学国際交流センター KIC、谷口絢女（鹿児島市）濱田時久、尻無あかり（薩摩川内市）
- 平成 26 年度会費 蒲田到（北海道）、岩田誠、松山容子、岩崎直子、宇田川国男、小林義郎、宇津木和夫、宇津木和子（東京都）、高野眞綾、（埼玉県）望月明子、小山内美江子（神奈川県）、鈴木琴子（茨城県）、高木史江（富山県）、岩崎岩男、西村宏子、桑田美智子、福田弘子、大園孝子、サトリ・ビ・パレッシェサービス㈱（鹿児島市）野元善文（いちき串木野市）、小幡順子、中村律子（出水市）、松永武志（阿久根市）、酒井マリ（鹿屋市）、小倉邦子、渡辺裕子、三本稔世、内田耕也、中村吉治、東條勝代、神田安代、山陸裕康、瀬戸山弘子、庵地紘一、（有）十本松ドライブイン、宮脇美智子、田中英世、辛島芳子、牧田弘子、今屋佳代子（薩摩川内市）
- 平成 27 年度会費 澤田達男、松山容子、宇田川国男（東京都）、森田正人（愛知県）時村兼輔、時村英輔、北村愛（鹿児島市）、丸田小百合（いちき串木野市）若田吉朗、東條勝代、かんだ調剤薬局、㈱ハートフル、安永健次郎（薩摩川内市）
- 平成 28 年度会費 長友由紀子、北村愛（鹿児島市）安永健次郎（薩摩川内市）
- 平成 29 年度会費 宇井豊（埼玉県）、時村ヨシ、時村睦子、北村愛（鹿児島市）
- 寄付金 岩田誠、松山容子、岩崎直子、宇田川国男（東京都）高野眞綾、宇井豊（埼玉県）、小山内美江子、望月明子（神奈川県）、長友由紀子、北村愛、時村ヨシ、時村睦子、大園孝子（鹿児島市）、若田吉朗、濱田時久、假屋泰子、瀬戸山弘子、庵地紘一、（有）十本松ドライブイン、藤井フサ子、澤口ミチ子、江口紀子（薩摩川内市）
- 机、いす募金 1 口：岩田誠、宇田川国男、望月明子、渡邊弘子、橋本しをり、山上実千子、（東京都）、サトリ・ビ・パレッシェサービス㈱（鹿児島市）、丸田小百合、野元善文（いちき串木野市）、山陸裕康、濱田時久（薩摩川内市）
2 口：小林義郎、松山容子、（東京都）高野眞綾、宇井豊（埼玉県）、馬場寛利（鹿児島市）、若田吉朗、瀬戸山弘子、庵地紘一、（有）十本松ドライブイン、澤口ミチ子

内野キヌ子、安永健次郎、若松裕子、（薩摩川内市）

4 口：望月明子（神奈川県）

10 口：石山利江（阿久根市）

- 大口寄付 帖佐徹、姫野治子（福岡県）、上赤順子（薩摩川内市）
- 印刷協力 神崎侯至（株式会社アクティブ）
- 新聞発送協力 立島尚子

【国内活動】

- 8 月 30 日 スタディーツアー参加者面接、選考会（帖佐徹・理子、神崎、小幡）
第 3 回理事会（帖佐徹・理子、神崎、小幡、高橋、今屋）
- 9 月 6 日 第 4 回理事会（帖佐徹・理子、神崎、小幡、高橋）
- 9 月 12 日 鹿児島純心女子大学打ち合わせ（古田、高橋）
- 9 月 27 日 スタディーツアー参加者事前説明会（帖佐徹・理子、神崎、古田、小幡、高橋、今屋）
第 5 回理事会（帖佐徹・理子、神崎、古田、小幡、今屋）
- 10 月 11 日 若松記念病院「秋桜忌」にて
パネル展示、活動紹介スピーチ（高橋）
第 6 回理事会（帖佐徹・理子、神崎、古田、小幡、高橋、今屋）
- 10 月 17 日 鹿児島純心女子大学打ち合わせ（古田、高橋）
- 10 月 25 日 鹿児島純心女子大学祭（高橋、今屋、柴）
～26 日 〃（増岡、立島）
- 11 月 9 日 第 7 回理事会（帖佐徹・理子、古田、神崎、今屋）
- 11 月 18 日 学校評価委員会（古田）
- 11 月 22 日 第 8 回理事会（帖佐徹・理子、小幡、高橋、今屋）
- 11 月 28 日 鹿児島純心女子大学打ち合わせ（高橋）
- 12 月 23 日 スタディーツアー
～28 日（帖佐徹・理子、神崎、古田、小幡他 5 名）
- 1 月 11 日 第 9 回理事会（帖佐徹・理子、神崎、古田、小幡、高橋、今屋）
- 1 月 30 日 鹿児島純心女子大学打ち合わせ（古田、高橋）
- 1 月 31 日 第 10 回理事会（帖佐徹・理子、神崎、古田、小幡、若田）

じゃっど INFORMATION

◆ 日本国際保健医療学会開催 ◆

市民公開講座

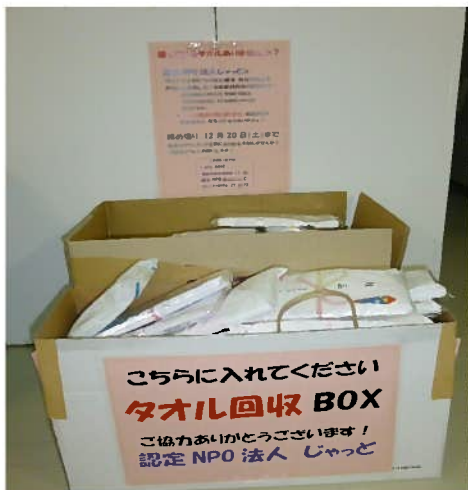
日時：平成27年2月28日（土曜日） 午後4：00～

場所：鹿児島純心女子大学

じゃっどが主催する学会です。会員の皆さんの多数のご参加、ご協力よろしくお願いします。
詳しくは別紙ご覧ください。

◆ ご協力ありがとうございました ◆

スタディツアーでラオスの小学校を訪問時、子供たちにプレゼントするタオルを募集したところ、200枚を超える数が集まりました。ありがとうございました



会員様の会費納入状況（会費有効期限）は、宛名シール内に記載してありますので、ご確認ください。（今年度平成26年度会費の有効期間は、平成26年4月1日～平成27年3月31日です）26年度納入された方には、宛名シール：会費有効期限 H27/3/31 とあります。

※ゆうちょ銀行の自動引落としにて会費お支払の方は、支払日＝8月31日となっております。※振込用紙はすでに次年度会費を納入済みの方にも同封してあります。寄付金等のご協力にお使いいただければ幸いです。

じゃっどの活動は皆様の会費に支えられています。

机いす募金・寄付金、随時受け付けております。

よろしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行： 02050-2-4746 口座名 JADDO

◆ 総会のお知らせ ◆

平成26年度、総会の日程決まりました。

日時：平成27年5月16日（土）午後3時から

◆ パネル展開催しました ◆

お手伝いいただいた皆様、ありがとうございました。



★10/11 若松記念病院
秋桜忌研修にて

★純心女子大学祭 10/25-26

鹿児島大学からボランティア参加ありました

★★ 編集後記 ★★

★ツアーに参加して、メコン川の夕日は素晴らしかった（ビールが美味し）。生きているうちにもう一度拝みたい。（KAMI）

★読書を目標に掲げた昨年。読みたい本を購入するまでは良かったけれど。その後、いつでも読める安心感で飾っておいて早1年以上。今年は収集した本を読みます（はいぶりっじ）

★今年は年女の私！新たに何か始めようと思い、手軽に始められる運動をと縄跳びを買いました。気持ちは跳んでいても体は思うようには動かないもの・・・(KI)